

磐田市歴史文書館

平成21年3月25日

もんじょかん

文書館だより

創刊号

磐田市教育委員会文化財課

歴史文書館は、地域の先輩たちが残した資料を集め、整理して未来に引き継ぐ仕事をしています。

私たちの住んでいる地域のことをもっと知りたい、調べてみたいと思われる方は、どうぞ文書館をご利用ください。



あなたの興味をお手伝い(レファレンス)

歴史文書館は、古文書などの資料を基に、歴史に関する疑問解決のヒントを提供できる場所でもあります。新築や納屋の片付けなどで古い文書が出てきたら、ご先祖の生活が見えてくるかもしれません。お気軽にご利用下さい。

最近のレファレンスから

- Q1 ; 近くの神社の由来や必要性などを調べたい。
- Q2 ; 関口隆吉氏の伝記を執筆中だが、資料を探して欲しい。
- Q3 ; 生涯学習で白山神社について研究し、論文にまとめたい。
アドバイスを。
- Q4 ; 市内寺院の創建、由来について調べたい。
- Q5 ; 千手の前ってどんな人？
- Q6 ; 自治会の歴史を知りたい。

— このような目的で歴史文書館をご利用いただきました —

資料閲覧とコピーについて

閲覧室の図書等(静岡県史・市町村史及び地域史資料など)は自由にご覧いただけます。古文書・歴史的公文書などは「利用許可申請書」に記入してスタッフにお渡し下さい。資料の閲覧・コピーには制限もあります。コピーは、複写枚数を記入し著作権の範囲内でご利用下さい。

〒438-0292 静岡県磐田市岡 729-1 磐田市竜洋支所2階
Tel 0538-66-9112 Fax 0538-66-9722 土日・祝日・年末年始は休館
E-mail chiikishi@city.iwata.lg.jp 開館時間 9:00~17:00

郷土の歴史を訪ねて

せんじゅじ せんじゅ まえ 千手寺と千手の前

源平の合戦に明け暮れた寿永三年（1184）、義経に一ノ谷を急襲されて敗れた平家の中に、平重衡という公達がいました。捕らえられて鎌倉（頼朝）に護送される途中、この磐田（池田宿）に留まれ、ここに、熊野の娘侍従との出会いがありました。池田の藤で有名な観光名所の出所でもあります。

やがて、鎌倉で重衡と対面した頼朝は、虜囚ながら、その潔く堂々とした態度に感服し、厚くもてなしを命じ、ここに才色兼備の千手の前に一年余にわたり世話役を命じました。死を悟る重衡への千手の思いは、世話係を命じた頼朝にして罪に思えるものとなりました。

翌、元暦元年（1185）彼の兄宗盛親子と同じくして上洛し、宗盛親子は近江で処刑されました。源氏側に味方した南都を焼き尽くした責任者平重衡への南都側の憎悪は烈しく、ついに木津川の辺にて首を刎ねられ、奈良坂に釘付けして晒されました。処刑を知った千手の前のその後の様子を語る『平家物語』は、髪を下ろし善光寺に入ったとなっています。『吾妻鑑』は、3年後に病で亡くなったと記しており、その病の原因は、平重衡への恋慕であろうとしています。いずれも、潔くも雅で高貴な公達への想いがいたった結末であったと思われる。

千手の前の、磐田の地との関係を記したものは、400年以上経った江戸時代の書物、山下熙庵『古老物語』や『遠淡海地誌』『遠江風土記伝』です。「平重衡刑戮後尼となりこの磐田の地に蟄居し、ここで亡くなった」と記



安政後建立の千手寺本堂

されています。熊野御前や侍従に比べ、千手の前の磐田の地との関わりは同時代の資料には明確ではありません。室町時代にできた謡曲や能などの影響が話の土台にすえられたかもしれませんが、記録が乏しかった地方での事、むしろ口伝としてその話が逆に地名や物語として伝えられたといえるかも知れません。

千手寺は、寺の言い伝えでは、鎌倉時代正安元年（1299）に建立されたとしています。元真言宗、つまり、まだ禅宗が広がる前の宗派で、密教を中心とした平安仏教の教えを地方に広めた1つの寺（庵）のようでした。建立には莊園領主や莊園内豪族・長者などの寄進が考えられますが、一般庶民の何がしかの協力もあったかもしれません。

千手の前は、生まれは手越（静岡市）であり、両親が池田庄の千手観音に祈り授かったため、「千手」と名づけたといわれます。また、「千手寺観音は白拍子千手女の持仏なり」（『遠江国風土記伝』）と記され、仏像が伝えられています。母の祈りの千手観音と記していますが、持仏の大きさが難点です。年代の鑑定では、平安末期もしくは鎌倉時代の作と見てよいとの報告があります。戦乱や災害で信仰の変遷などで記録を失う神社や寺院は多くあり、全くの作り事とは思えません。何らかの当時の事実を、地名や口伝や物証として残しているのではないかと探る事も必要と思われる。

私たちの地に伝えられる歴史や、「謡曲」や「能」として伝わる伝統芸能が、人々の思いを豊かに育てくれる文化財として長く息づかせたいものです。（記N） 註：傍線の報告は日本学館大学塩沢准教授(美学)鑑定による。



伝千手観音像

来年度の企画展開催のお知らせ

期間 平成21年4月1日(水)～平成21年8月31日(月)

テーマ 「天竜川と橋」

サブテーマ 「天竜川越しの歴史と木橋」